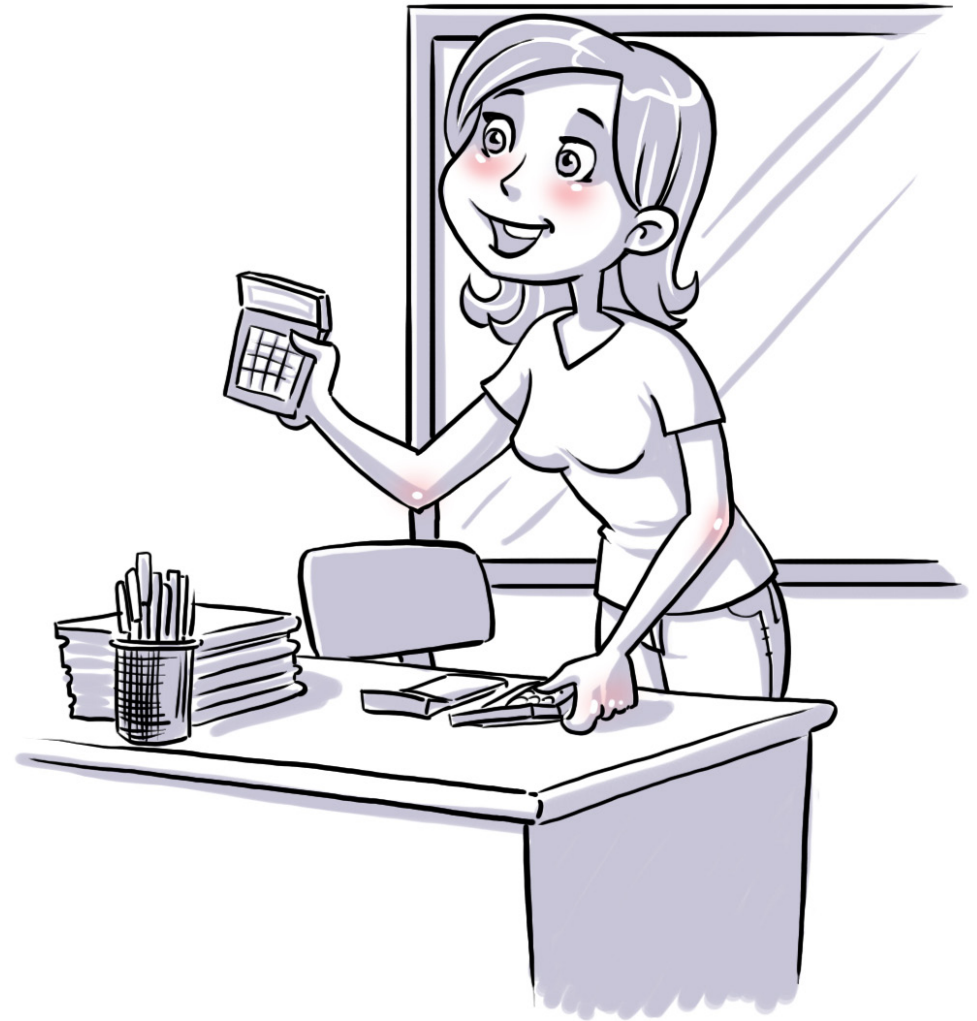


でん たく 電卓チャレンジ

「午前中は、算数ドリルね。今週は ずっと、九九の復習をしてるんだけど、ジェンキンには勝てそうにないわ。」と、しおみが 友達のティアに 言いました。

「そうね、ジェンキンはいつも 真っ先に 答えを出しちゃうものね。」ティアが うなずきました。「だけど、私も 今は、ほとんどの 答えが 分かるわ。ジェンキンみたいに 速くは ないけどね。」



「私も。まあ、一回くらいは 算数ドリルで 勝てると うれしいんだけどな。」

しおみとティアは 席に 着いて、授業の 準備を しました。

まもなく、フィリップス先生が 教室に 入ってきました。「みんな、おはよう。いつもと ちよっと ちがう 算数の 授業を 始めるわよ。」子どもたちは、待ってましたと 言わんばかりに、先生の方を 見ました。「今日は、びっくりさせる ものがあるの。電卓よ！

ティア、これを みんなに 配って もらえるかしら？ 今日、電卓の 使い方を 学ぶのよ。」

ほとんどの 生徒は、電卓を もらって わくわくして いました。が、この 新しい 計算機器を もらって、しずんでいる 男の子が いました。

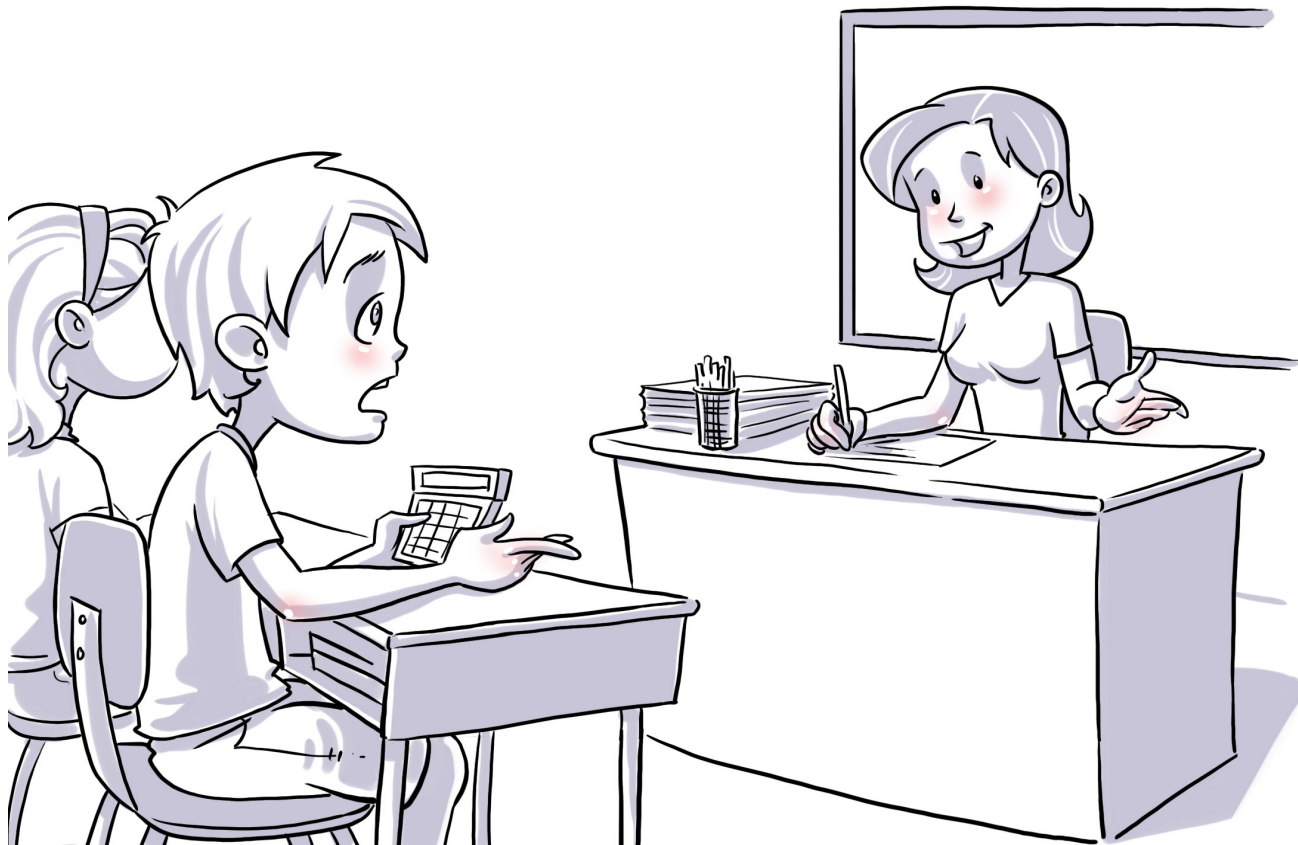
ジェンキンは電卓に目をやりました。暗算で足し算やかけ算を解くことにおいては、彼がクラスで一番です。でも、経験からいって、彼は電卓を使うことにおいては、あまり速くないとわかっていたのです。これから先、算数ドリルで勝つことはできるのでしょうか？

「フィリップス先生、算数ドリルは今までと同じやり方で続けられますか？」と、ジェンキンがたずねました。「ドリルには電卓はいらないとおもいます。」

「いつも電卓を使うわけじゃないわ、ジェンキン。でも、電卓の使い方を練習するのは、大切なことよ。暗算で解けるのもいいけど、難しい足し算では、電卓が必要になるもの。じきに慣れるわ。」と先生は答えました。

でも、ジェンキンはなかなか電卓に慣れませんでした。それどころか、授業が進んでくると、ますます電卓の使い方が分からなくなりました。同級生達のほうが、ずっと速く答えを出し、みんな、電卓を使うのを楽しんでいるようでした。

ジェンキンは、電卓を使った算数ドリルでは、だれかが答えを言う前に式一つ押し終えることさえできませんでした。しおみもティアもトッドも、電卓のドリルではみんな、一番になる機会がありました。ドリルで一番になれないという新しい経験は、ジェンキンにとって気落ちさせるものでした。



その夜、ジェンキンのお母さんが、今日の勉強はどうだったのと聞きました。

「フィリップス先生が、ぼく達みんなに電卓をくれたんだ。」と、ジェンキン。

「それは役に立つわね。なのに、どうして浮かない顔をしているの？」

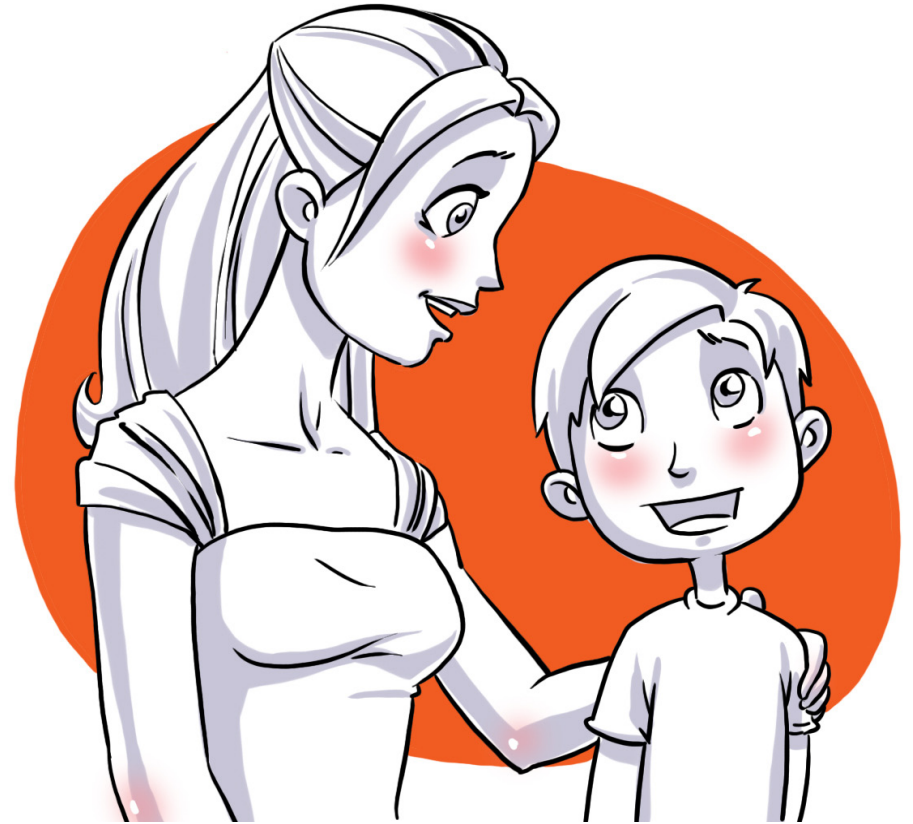
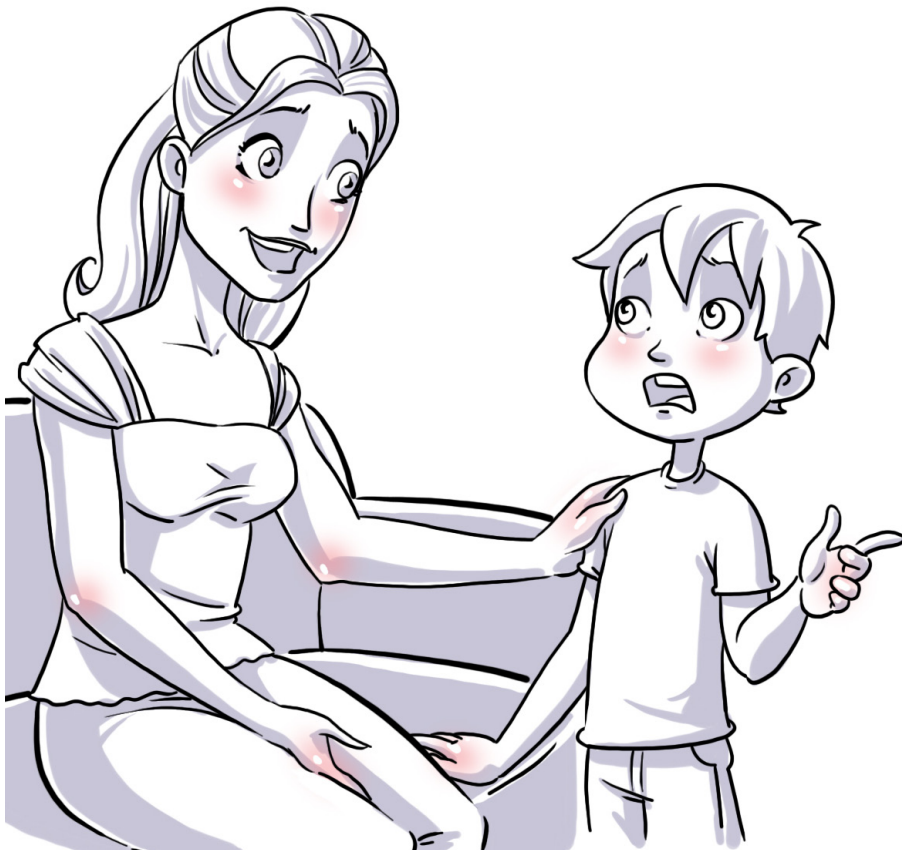
「電卓を使ったドリルでは、ぼく、1度も勝てなかったんだ。」とジェンキンが

答えました。「全部、他の人達に一番を取られちゃったんだよ。ぼく、電卓の使い方が下手なんだ。あんなの、もらわなきゃよかった！」

お母さんはジェンキンの肩に腕を回してなぐさめました。「ジェンキン、新しいことを学ぶのは、人生の一部だわ。事実、大切な部分なの。最初はすごくむずかしいように

思えてもね。お父さんとお母さんだっ、いまだに新しいことを学び続けてるわ。知ってた？」

「だけど、お母さんにとっては簡単なんですよ。」とジェンキンが言いました。



「そうとは限らないわ。例えば、以前私は料理が得意じゃないと思って、簡単なものしか作らなかつたでしょ？ でも1年くらい前、そろそろレパートリーを広げて、もっといろいろな料理を学ばなくちゃなあって気が付いたの。大変だったけど、今では何種類もの料理が作れるわ。」

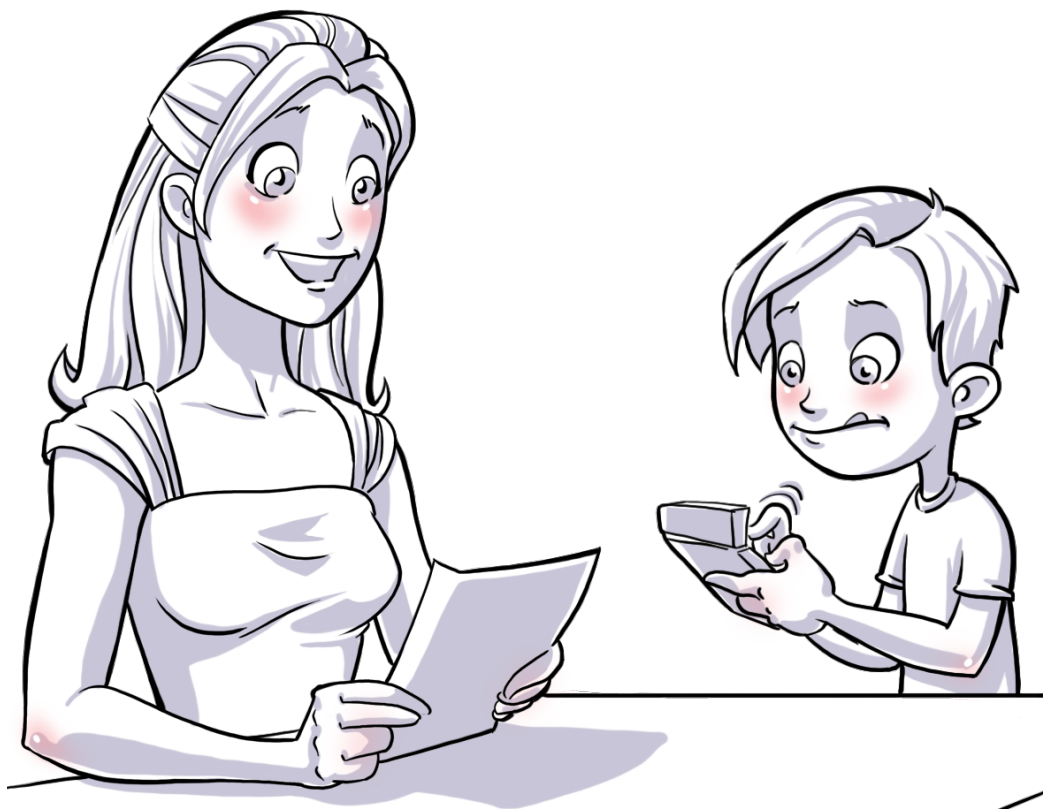
「友達はずっと、お母さんの作る焼き菓子が好きだって言ってるよ！」思わず、ジェンキンが声を上げました。

「まあ、うれしい。でもね、もし私が無理だと言ってあきらめていたら、そうはならなかつたでしょ。」

新しいことを学ぶために一歩ふみ出すと、人は成長するものなの。才能を伸ばしたり増やしたりすることは、大切なことよ。それによって人生はもっと豊かになり、結果としてより大きな幸せにつながるんだし。イエス様にとっても、新しい方法で私達を用いる機会が増えるわ。

よかったら、放課後、電卓の練習を手伝ってあげるわよ。いったん慣れてしまえば、だんだん速くなるし、そうなれば楽しくなるわよ。やってみない？」

ジェンキンは、お母さんが手伝ってくれるというので、うれしくなりました。2人はいっしょに祈り、それから電卓で算数の問題を解く練習をしました。2、3日たつと電卓を使うのが簡単になってきて、ジェンキンはお父さんといっしょに、電卓にある他の機能の使い方を試してみるのを楽しむほどになりました。ジェンキンは、長く複雑な式を解く時には電卓がとても役に立つというのが、よく分かりました。



ジェンキンは、今でも暗算でやる算数ドリルが好きですし、ふつうが一番です。電卓を使うことに関しては、クラス一速いわけではありませんが、楽しく使えるようになりました。また、電卓を使ったドリルで同級生が勝った時にほめてあげるのが楽しいことにも、気が付きました。

- あなたには、苦手な科目がありますか？ または、勉強しなくて済んだらいいのと思うような学科がありますか？
- 歴史上、困難な課題や状況を克服したり、むずかしい技を身に着けることによって、偉業を成し遂げた人を思い出してみよう。